本年度の重点目標		1. 主体性の育成	2. 確かな学力の育成	3. 内外に開かれた教育環境(働きやすい職場環境を含む)の整備
		① 自己有用感、自己指導能力(生徒自ら考え判断し、適切に行動できる力)を育む指導 ② 学校の特色化に資する文武両道の奨励 ③ 進路指導の充実	① 丁寧で分かる授業の充実 ② 家庭学習・自主学習等の習慣化に向けた工夫・改善 ③ 教職員研修の充実 ④ 新旧2つの学習指導要領への対応と評価	① 働き方改革の推進 ② 事前、個別、事後を意識した危機管理の徹底 ③ 教職員の心と身体の健全化
1学年	具体目標	○ルールやマナーを遵守し、自立した生活を意識させる。 行動の結果を振り返り自己を成長させる力を身に付けさせる。 ○部活動等に意欲的に取り組ませる。学習との両立に対する目的意識を身に付けさせる。 ○自分の進路について考える力を身に付けさせる。	○課題に対して主体的に解決する力を身に付けさせる。 ○自主学習に向けたスケジュール管理の習慣を身に付けさせる。 ○外部機関等の講習や研修に参加する機会を設ける。 ○3観点評価を実施し、より良い評価方法を模索する。	○学年内の分掌を効率的に果たす。 ○配慮を要する生徒を見落とさず、情報共有を徹底する。 ○互いに声をかけやすい職場環境作りを目指す。
	具体方策	1) 生徒の行動に留意し、不適切な行動があればその場で指摘すると同時に、どのように行動すれば良かったのかを考えさせる。 2) 何を為すべきかを自らに考えさせ、主体的な活動や学習に結びついていくよう助言する。 3) 面談等を通して、情報収集の手段や方法について具体的なアドバイスを心がける。	1) 授業中等に自ら思考・判断する場面をつくり、協働して学習を進める時間を増やす。 2) スタディサプリを導入し、朝の学習だけではなく部活動との両立にも役立てていくことができるよう助言していく。 3) 講習や研修の資料等を必要に応じて閲覧・掲示していく。 4) 教科間、学年間で情報共有を行いながら、より良い評価になるように試行錯誤を繰り返していく。	1) 分掌に偏りが無いかを常に検討し、改善を心がけながら協議していく。 2) 些細なことであっても抱えてしまうことが無いよう、学年会や担任打ち合わせなどで情報共有し対応を協議していく。 3) 学年内の円滑なコミュニケーションを心がけ、常に協力できる体制を整えていく。
2学年	具体目標	○協働的な活動を通して他者から認められ、他者の役に立っていると感じられる絆づくりを進める。また、自らの生活を客観的に見つめ直し自己管理できるようにさせる。 ○学校の諸活動に積極的に取り組ませ集団の一員として進んで貢献できる意識を確立させる。 ○自らの生き方を考え進路選択ができるようにさせる。	○主体的に問題解決に取り組む姿勢やそれに基づいた手立てを準備し「問題意識を生む」「問題意識をつなぐ」という視点を考え授業を行う。 ○基礎学力や応用力をつけるために主体的な学習を習慣づけ、進路への関心を高めさせる。 ○現代的な諸課題に対応するために、多様な教材・資料等を活用する。 ○大学入学共通テストに対応できる能力を促進させる。	○学年担任間での情報の共有を図る。 ○安全確保に万全を期したうえで自己ベストを目指す。
	具体方策	1) 生徒一人一人に活躍の場を設定し、役割を与え、それを果たした努力を承認する。また白手帳を利用し朝食、運動、睡眠などの生活習慣を把握的的確なアドバイスをする。 2) 部活動、生徒会、諸行事に主体的に参加させる。また、地域交流、国際交流活動に積極的な参加を促す。 3) 総合的な探究の時間や進路学習講座などを通し、進路に対する理解を深めさせる。	1) 学習内容に繋がる気付きや疑問を持たせる。また、それに対する考えを明確にし、詳しく表現させる。 2) Teamsや白手帳等を活用し目標設定と振り返りを実施させる。 3) Benesse等のシステムの活用により、多様な大学入試に対応できる能力を養う。 4) 全科目で定期考査において論理的思考力を問う問題を1問設定し、1年後の共通テストにつなげる。	1) 情報を共有し、風通しの良く、生徒を第一に考えた仕事ができるようにする。 2) 安全確保をしながら部活動、生徒会等の行事、及び国際交流や地域連携活動関係の行事へ積極的に参加させ、活動を通して自分の役割を認識し、コミュニケーション能力を伸長させる。
3学年	具体目標	○学校行事等に全力で取り組ませる。 ○進路実現のために、実力をつけて進学、就職できるよう努力を継続させる。	○自ら思考・判断する場面をつくり、主体的に課題を解決する力を育成する。 ○充実した進路指導を行うために、新しい情報を生徒に提供出来るよう努力する。	○効率よく学年業務が行える様に、業務内容や方法の整備を行う。
	具体方策	1) 自ら為すべきことを常に見つけさせ、主体的に活動できるよう見守る。 2) 広い視野で進路情報を収集させる。1ランク上の目標を提示し、達成できるよう助言する。	1) 授業展開の中に、生徒が主体的、協働的に学習活動する時間を設ける。 2) 様々な大学等の説明会や研修に参加する機会を設ける。	1) 各係の業務が効率よく行えるように精選や見直しを行う。 2) teamsを活用し、業務の効率化を図る。
国語科	具体目標	○幅広いジャンルのテキストを、問題意識を持ちながら主体的に読ませ、物事を多角的に捉える力を身に付けさせる。 ○自身の進路に応じた読書活動に主体的に取り組ませ、進路研究や受験に対応できる素養を身に付けさせる。	○基礎的知識の定着を図る。 ○様々なテキストの具体的な読解の方法を身に付けさせ、読解力を養う。 ○多様化する現代社会の中での主体的な判断と行動に繋がる論理的思考力を育て、自ら学習に向かう姿勢を身に付けさせる。	○3年間の見直しを持った学習計画のもと、国語科として実施する学習活動を精選し、教員の負担を減らしつつも生徒の学力と主体性を育成する効率的かつ効果的な学習活動を実施していく。
	具体方策	1) 漢字や単語の学習、速読教材の活用により語彙力を高めさせる。 2) 論理的文章の読解により論理の展開を読み解かせ、要約する力を養う。 3) 古典の語彙や文法、表現の特徴を理解させ、読解する力を養う。 4) 読書活動記録をつけさせ、幅広い教養と見識を養う。	1) 様々なテキストを読むうえで活用できる知識の定着を図る小テストを実施する。 2) 授業内容を理解するだけでなく作品読解を通して、どのように読むか、読解のプロセスを身に付けさせる。 3) 文学作品や評論が提起する問題を自己の内面に引きつけて考えさせることにより、社会や人間の在り方についての考えを深め、関連する他の作品や文章にも興味を持たせ、主体的な学習へつなげる。	1) 国語科として3年間でどのような生徒を育成していくのか共通理解のもと学習活動を教科内で検討し、教科内はもとより、他教科とも連携しながら効率的かつ効果的な学習活動を実施する。そのうえで、業務の精選・改善を図り、教員の負担軽減につなげる。
地歴公民科	具体目標	○自己有用感、自己指導能力の向上につながるよう、学習に対する自己の取り組みに自信を持たせられるような働きかけを継続する。 ○生徒の進路実現につながる指導、研究を推進する。	○丁寧で分かる授業を意識した、生徒の実情に合った授業を展開する。 ○家庭学習・自主学習等の習慣化につながる生徒への働きかけを行う。 ○教職員研修の機会を設け、またその情報共有を図る。 ○特に新学習指導要領に対応できる教科としての体制を構築する。	○業務の効率化、一人に業務の負担が集中しない体制の構築により、働き方改革の推進、教職員の心と身体の健全化を図る。 ○様々な情報を教員間で共有することで、危機管理の徹底につなげる。
	具体方策	1) 適正なレベルの定期試験を作成する。 学習を振り返る機会を設定する。 2) 入試問題等を研究し、その成果を授業、テスト作問に活かす。 授業内や課外など様々な機会を利用し、志望大学合格に向けての集団・個別指導を積極的に行う。	1) ICT機器の活用ほか、丁寧で分かる授業につながる取り組みを、各自で創意工夫、実践する。 2) 予習・復習の指示、課題の提出・確認など継続的に実施する。 3) 研究授業(及び授業研究)、教育課程研究協議会、地歴・公民部会(講演会)など分担して実施・参加するとともに、その情報を共有する。 4) 昨年度新課程生の授業を担当した教員からの情報提供、助言を積極的に行う。	1) 業務分担を明確にする。 不要な会議は縮減する。 2) 閲覧や校務用データへのファイル保存により多くの情報を共有する(特に成績評価の裏付けが確認できる体制の構築)。

数学科	具体目標	○授業時の主体的な活動を通して、学ぶことに興味や関心をもたせ、粘り強く取り組む姿勢を育てる。	○身の回りの事象を数学的に解釈し、表現・処理できる能力の伸長を図る。	○教科担当者間での情報の共有を図る。
	具体方策	1) 対話やグループ活動を通して、自己の考えを深めたり広げたりする、あるいは他の意見を検討するなど生徒同士で学び合える教育活動を実施する。 2) 様々な解法を探索する中で、考え方の多様性を育む。	1) 研究授業の実施および研究協議の充実やICT活用法の共有により、授業力の向上を図る。 2) 生徒の実態に即した課題の提示やテストを実施し、骨太な学力を育成する。 3) 新旧2つの学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図り、情報を共有する。	1) 授業進度や指導法・教材の工夫などの情報を共有・蓄積し、学年を超えた指導の充実を図る。 2) 教員間の協働を図り、風通しのよい環境を作る。
理科	具体目標	○授業や探究の過程をととして、科学的思考力を育成するとともに、自発的な発言・行動ができるように促す。	○生徒個々の能力や進路に応じた学習方法を確立させる。	○実験・実習における安全管理を徹底し、生徒への周知と職員間の連携に努める。
	具体方策	1) 授業中の発問を工夫することにより、常に思考する姿勢を生徒に身につけさせる。 2) 実験をととして、授業で学んだ知識を深化させるとともに、社会や身の回りの現象との関連に気づけるよう指導する。 3) 生徒の進路希望を把握し、授業や課外で生徒に適切な指導をする。	1) 思考の過程を重視し、単なる丸暗記に終わらないよう日頃から指導する。 2) の理解度や到達度に応じた小テストなどをこまめに実施し、基礎力の確実な定着を目指す。 3) 新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	1) 実験室等のこまめな整理整頓を心掛ける。 2) 生徒自身の安全に対する意識を高めさせるため、「実験室の使い方」や「実験をするときの注意」についてガイダンスを行う。 3) 有事の際に早急に適切な対応ができるよう、日頃から教科内の連携を図る。
保健体育科	具体目標	○心身の調和のとれた発達を促し、健康で安全な生活を営む態度を養う。 ○自主的な授業への取組により、生涯にわたって豊かなスポーツライフが継続できる実践力が身に付く指導に努める。 ○教科横断の指導で体力・技術の向上及び社会的態度を育成する。 ○全ての指導において、礼法指導等を通じた道德教育を行い、状況に応じて主体的に考え実践する態度を養う。	○体育や保健での積極的なICTの活用 ○科内のICT活用術の共有 ○3観点についての評価方法の研究 ○3観点に基づいた授業内容の研究	○未然防止に向けた取組（事前の危機管理） ○危機発生時の対応（発生時の危機管理） ○対応の評価と再発防止に向けた取組（事後の危機管理）
	具体方策	1) 保健や体育理論で運動の重要性を理解させ、体育で実践させる。 2) 体育委員や種目リーダーを中心に個人や集団の課題解決ができる生徒主体の授業展開を促す。 3) 自校体操やサーキットトレーニングの効果を理解させ自発的に取組めるよう支援する。 4) 教官室の出入りや先生方への言葉遣いについての礼法指導を徹底する。	1) 研修等で知識を習得し、科内で共有しながら授業内容の研究を進める。 2) 習得した知識や既存の知識を使い、動きと場を変容させたり、理想の動きと自己の実態を比較したりして立てた計画を実行させる。 3) 計画して実行した運動内容を評価したり、改善策を考えたりすることを通して、自己の運動を振り返らせる。	1) 過去に発生した事例の危機発生の原因や経過等の分析・検討、また生徒・保護者からの情報収集により、問題の早期発見に努め、危機に至る前に解決するよう取り組む。 2) 日ごろから、一人一人の生徒への継続的な支援や施設・設備に関する定期的な点検等を行い、危機の未然防止に努める。 3) 連絡ツールを活用し、報連相確を充実させる。
芸術科	具体目標	○芸術文化について理解を深め、望ましい人格の完成を目指す。 ○興味関心を持って積極的に授業に取り組みながら、芸術を愛好する態度を養い、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	○生徒の言語活動の向上を目指した授業を実践する。	○教科間での情報共有 ○使用教材の精選
	具体方策	1) 諸活動を通じて基礎的知識・技能を習得し、表現力・想像力を育成する。 2) チャイムtoチャイムの徹底と1分前授業準備。 3) 教材や備品等を大切に扱う。	1) 生活の中に美的感動を発見する態度を養う。 2) 自他の作品や発表を鑑賞し、根拠を持って批評・評価を生徒間で行う。	1) 音楽書教科間で各クラスの生徒の様子や雰囲気等の情報を共有し、問題の早期発見・早期解決に取り組む。 2) 使用教材を衛生面からも工夫をし、安全を確保して学習に取り組ませる。
英語科	具体目標	○基礎学力の充実を図るために授業を大切に作る姿勢を養成する。 ○英語の知識を深め表現力を高めるとともに、視野を広げ積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。	○上位者を伸ばすための個別指導、不振生徒の早期発見、早期指導に努める。 ○学習意欲喚起に向けた指導を工夫する。	○外部試験の積極的受験を促す。 ○日頃からの情報共有
	具体方策	1) 予習・復習の徹底を図る。 2) 真摯な態度で授業に取り組ませる。 3) 小テスト等により継続的学習を促す。 4) 各種大会への参加を促す。 5) 読書や新聞、インターネット等、様々な媒体を使い教養を高めるよう指導する。	1) 上位者への個別指導を徹底する。 2) 週末課題、朝学等により家庭学習を習慣付ける。	1) 外部模試の紹介や案内を充実させる。 2) 教科打ち合わせなどを活用し、生徒理解のための情報共有の徹底を図る。
家庭科	具体目標	○家族や友人・地域の方との交流の中で相互扶助の気持ちを持たせる。 ○自ら考え行動できる力の育成・向上を目指す。	○学校（知識、体験）と家庭生活（実践、定着）をつなぐ授業を実施する。	○安全・衛生面の徹底と定着
	具体方策	1) 話し合いを通し、他者の考えを知り共有していく機会を多く取り入れる。 2) 授業で得た知識や技術を実生活の中で活用できる力を養う。	1) ホームプロジェクトを活用し、実生活の中での実践する主体性を養う。 2) 生徒の生活実態に応じた教材を検討・提示し、定着を図る。	1) 共有備品・使用教室の使い方の指導と整備、消毒の実施に努める。

情報科	具体目標	○主体的な活動を通して自己有用感、自己指導能力の育成に努める。 ○発表する機会を通して他者と認め合い、自他を尊重する姿勢を育む。	○主体的に問題解決に取り組むことで、メディアリテラシーを育む。 ○新学習指導要領に即した指導と評価の一体化を図る。	○教科担当者間での情報の共有を図る。
	具体方策	1) 学習課題を提示し、どのように解決するか自ら手順を考え、実行させるようにする。 2) 自分でテーマを設定しプレゼンテーションを作成することで自己を客観視させる。さらにクラス発表を通して他者を尊重する姿勢を育む。	1) Teamsを活用した課題配信・添削を実施し、生徒の到達度・進度に即した指導で骨太な学力を育成する。 2) 理論の学習と実習のそれぞれの場面に即した規準を検討し、評価する。	1) 情報を共有し、風通しの良く、生徒の事を第一に考えた仕事ができるようにする。 2) 使用教材や資料を可能な限り共通化し、業務の効率化を図る。
教務部	具体目標	○国際理解教育や地域連携活動等、特色のある活動を推進する。	○生徒の適性・能力に応じた学習指導の充実にむけて学習環境を整える。	○業務の効率化にむけて業務内容や方法の整備を行う。
	具体方策	1) 学校行事を工夫する。 2) 学校HPを充実させ、学校の特色等について積極的に情報を発信する。	1) 教育課程が生徒の適性や進路希望に即しているかチェック・検討を継続する。 2) 研究授業を充実させる。 3) GIGAタブレットや校務支援システムの活用に関する校内研修を行う。	1) 各係の業務の進行を把握し、業務の検討・改善を行う。 2) 行事の精選・見直しを行う。 3) 校務支援システムを活用し、業務の効率化を図る。
渉外部	具体目標	○学校と家庭、地域との連携をはかり、生徒の社会性を育む教育活動を推進する。 ○保護者間の連携を深め、学年部会、各種専門部会、支部会活動の充実を図る。 ○PTA、同窓会、各種団体との連携を図り、円滑に事業を実施し、さらなる学校発展に寄与する。		○PTA役員保護者の負担を考え、運営委員会や専門部会を精選し、来校する回数を減らせるよう努力する。 ○PTA生活指導部保護者協力の登校時の交通立哨指導により、自転車通学の生徒の安全確保の一助とする。
	具体方策	1) PTA活動について、役員、学年委員、支部会、部活動理事などが中心となり、学校と家庭の連携を密にして、充実した教育活動を推進する。 2) 同窓会活動について、同窓会理事と連絡を密にしながら、連携を取り、活動を円滑に行えるように努める。		1) PTA会長・副会長及び執行部役員と綿密にコンタクトをとり、意見を伺い、決定していく。 2) 本校生徒指導部交通係と連携し、交通立哨指導を計画・実行していく。
健康指導部	具体目標	○健康の保持増進を図る。 ○気力・体力の向上を図る。	○校舎内外の美化に努め、公共物の愛護の心を養成する。 ○緑化の推進にあたる。	○防災・安全対策を適切に実施する。
	具体方策	1) 保健室運営方針に基づき、保健計画を適正に実施する。 2) 「保健みなみ」を活用し、保健委員の活動を指導する。 3) クラス出席率99%以上を目標とし、教育相談と連携を図りながら養護指導を行う。 4) 体育活動を通し体力の向上を図る。 5) 体育施設の整備・用具の充実を図る。 6) 校内マラソン大会を成功させるよう事前準備を十分にを行う。	1) 全職員が清掃監督に当たり清掃美化を徹底する。 2) 校内美化の意識を養う。 3) 花壇整備など、緑化活動を積極的にすすめる。 4) 勤労体験の場をつくり、奉仕の精神を涵養する。	1) 消防・防災・避難計画により安全・迅速に行動するように努める。 2) 施設・設備の定期的な点検を実施し、事故防止に努める。
学習指導部	具体目標	○主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ○自己の将来につながる課題を見つけて解決を図る探究的な学習を実践する。	○授業改善、学習評価の工夫（新旧学習指導要領に基づいて）に取り組む。 ○家庭学習の習慣化と学習方法の確立を図る。	○各学年、各教科との情報共有に努め、共通認識の下、学習指導部の業務の効率化を図る。 ○地域とのかかわりを積極的ににつくり、その連携を強化する。
	具体方策	1) 主体的な学習態度の育成 ①10分前登校と朝学の奨励 ②「学習と生活の記録」ノート（白手帳）の有効活用 ③教科係やホームルーム委員長などのリーダーシップの育成 ④人権教育・主権者教育・福祉教育・国際理解教育・地域連携活動・図書活動等の教育活動を通じた学習意欲の喚起 2) 探究的な学習の実践と充実 ①総合的な探究の時間における自己の将来を見据えたテーマ選択、探究活動の実践 ②各教科における探究的な学習姿勢の育成	1) 授業改善、学習評価の工夫 ①生徒がタブレットを使用する授業の実践 ②学習評価の工夫 ③授業見学の励行と研究授業、授業研究会、教員研修会の開催 2) 家庭学習の習慣化 ①「学習と生活の記録」ノートや各種調査の有効活用 ②適時・適量な課題・小テストの実施 ③スタディサポートの有効活用 ④授業及び定期試験を通じた学習到達度の把握と個別対応 ⑤成績不振者への支援（試験前、その他）	1) 情報共有による業務の効率化 ①各担当、各学年、各教科の連携による指導の充実および業務の効率化 ②年間学習指導計画の共有と教科横断型授業の実施による生徒の幅広い知識習得への工夫 2) 対応の迅速化 ①関係各部との情報共有・連携強化による学習不振、学校不適應生徒に対する迅速かつ適切な対応 3) 地域への積極的な働きかけ

進路指導部	具体目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒自ら進路を考え決定できるよう、きめ細かな指導及び情報提供を行う。 ○生徒の個に応じた強みの養成を意識させ、校内外の諸活動への参加を促す。 ○諸活動での実績を生徒自ら評価し、積極的に発信できる表現力を涵養する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路実現に必要な「確かな学力」を身につける指導を行う。 ○ライフデザインやキャリアデザインの観点から進路を考えるよう喚起する。 ○新課程入試に関する情報収集を収集し、校内での共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体系的な指導体制を再検討し、業務の効率化を進める。 ○生徒がベストの状態で活動できるよう、安全確保に万全を期す。
	具体方策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業、個人面談、学年集会等を通して、進学・就職の動向の情報提供するとともに、生徒の意思を確認しながら適切な指導を行う。 2) 生徒自らのアピールポイントを明確にするべく、部活動、生徒会活動のほか、ボランティア活動、学校説明会等への積極参加を促す。 3) 進学、就職に関する情報を適宜保護者等にも提供できるよう努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学習内容や日常生活の中の興味・関心かを高め、生徒が探究活動によって社会で活躍できる可能性を広げるよう支援する。 2) 入学試験や入社試験の傾向を的確に捉え、生徒に求められている力が身につくよう授業内容や学習形態、発問等を工夫する。 3) 国立大学、私立大学・短大による新課程入試の相違点を整理し、教科打合せ等で対応を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 進路行事について目的と効果を検証していくとともに、効率的に運営・進行できるよう改善していく。 2) 引き続き、生徒が受験や学校見学に参加する際の安全面や感染防止等の指導を継続する。
生徒指導部	具体目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自己指導能力を育成し自信と誇りを持てる生徒の育成 ○教育相談活動などの一層の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止と安心して学業に励むことのできる環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に応じた生徒指導諸問題への対処
	具体方策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 自己指導能力を高め自信と誇りを持てる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ① 凡事徹底と基本的な生活習慣を確立する。 <ul style="list-style-type: none"> ・制服を正しく着用させ学校への帰属意識を高める。 ・遅刻指導と「チャイムtoチャイム」を徹底する。 ・ルールの遵守やあいさつ、礼儀等本校の良き伝統を定着させる。 ② 自己管理能力を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら交通法規を遵守する態度を養い、苦情を減少させるとともに交通事故の減少傾向を維持する。 ・貴重品管理の指導を継続し、盗難を未然に防止する。 ・整理整頓を心掛けさせ、遺失物を減少させる。 2) 教育相談活動などの一層の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ① SCや「学業支援応援チーム派遣事業」を活用した特別支援体制を充実させる。 ② 各クラスの「生徒の情報調査」等から、不登校生徒などの早期発見・早期対応に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) いじめアンケートとクラスの融和 <ul style="list-style-type: none"> ① 改訂「いじめ防止基本方針行動計画」を職員間で共有、徹底する。 ② いじめ情報共有シートを効果的に活用する。 2) 規範意識や人権意識の高揚、自己有用感の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活において、一般社会に通用する規範意識や礼儀作法やマナーなどを身につけさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生徒に応じた生徒指導諸問題への対処 <ul style="list-style-type: none"> ① 各係の円滑な職務の遂行と、問題発生時に迅速かつ柔軟に対応できる協力体制を構築する。 ② 日常からの各部・各学年とのコミュニケーションを通じ、生徒に応じた指導となるよう諸問題に対処する。
特活部	具体目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の充実を図る。 ○部活動の一層の充実を図るとともに適切な運営を検討する。 ○ホームルーム活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際理解教育・インターアクト、地域連携、福祉教育との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの行事を実施可能にする危機管理の徹底と学校行事の変更に対する臨機応変な対応を図る。
	具体方策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生徒会役員をはじめホームルーム役員等のリーダーシップをとれる生徒の育成を図る。 2) 諸行事では生徒の自主的・創造的活動の活性化を目指し、積極的に緻密な企画・運営がなされるよう指導する。 3) 部活動への参加を奨励し、個々の特性・能力の伸長を図る。 4) 礼儀正しい人間を育成する。単に技能だけを高めるのではなく、お互い協力し助け合う等、心豊かな生徒を育てる。 5) 学習状況、通学状況、健康管理等、関係職員との連携を密にし、個々の生徒への共通理解の深化を図る。 6) 部活動の在り方、活動時間や練習内容など、他校の模範となる部活動運営計画を構築する。 7) 十分な時間数を確保し、綿密な年間計画、事前準備等により円滑な運営が行われるよう努める。 8) 学校生活の基盤としての場であるので、クラス内の融和を図るとともに、自主的・自律的な態度を育てる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導部の国際理解教育・インターアクト係、地域連携・福祉教育係と生徒会が連携を図れるように留意する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 新型コロナウイルス感染症蔓延防止対策を速やかに実施し、変更等に柔軟に対応しながら、行事の実施を目指す。 2) 最悪を想定し慎重に素早く誠実に組織で動く。
事務部	具体目標	<ul style="list-style-type: none"> ○施設・設備の充実を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○不具合施設・設備に迅速に対応する。
	具体方策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 適時適切な施設整備計画を作成し、効率的な予算執行に努め、施設・設備の充実を図っていく。 2) 各部との連携を密にし、整備要望の把握に努める。 		<ol style="list-style-type: none"> 1) 日常の巡回巡視において、不具合箇所の早期発見に努める。 2) 特に危険箇所については、修繕対応（予算要求）を迅速に行い、生徒・教職員の安全を担保する。